

在籍校名 筑紫野市立二日市東小学校  
職・氏名 教諭 池田 友美

## 研 修 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

### 記

#### 1 研修種別

D 福岡県教育センター研修員

#### 2 主題研修について

研究主題 確かな考えを形成する児童を育てる高学年国語科学習指導

—違いをもとに読みを追究する学習過程を通して—

##### (1) 研究のねらい

###### ア 課題の背景

平成 28 年中央教育審議会答申においては、「答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら、目的に応じた納得解を見いだしたりすること」の重要性が示されている。また、同答申において、「文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である」と指摘され、小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説国語編において、自分の考えを形成する学習過程がすべての領域に位置付けられた。これらのことから、多様な解釈が生まれる文学的文章の読解において、他者との協働を通して文章を的確に理解するとともに、理解したことを考えの形成に生かすことができる児童を育てることは意義深いと考え、本主題を設定した。

###### イ 研究の目的

小学校高学年国語科「読むこと」の学習において、確かな考えを形成する児童を育てるために、違いをもとに読みを追究する学習過程の有効性を究明する。

###### ウ 研究の仮説

小学校高学年国語科「読むこと」の学習において、違いをもとに読みを追究する学習過程を仕組むことにより、新たな叙述に着目したり、叙述に対する自分の解釈を見直したりしながら文章に対する読みを修正・強化するとともに、修正・強化された読みに基づいた確かな考えを形成する児童が育つであろう。

##### (2) 研究の構想

###### ア 主題の説明

###### (7) 主題について

「考えを形成する」とは、文章を読んで理解したことを既存の知識や体験と結び付け、自分にとっての価値や意味を見いだしたり、想像を広げたりすることである。石丸(2020)は、考えの形成を促す文学の授業づくりについて、「『構造と内容の把握』及び『精査・解釈』の充実を経て『考えの形成』が成立する」<sup>1)</sup>と述べている。そこで、「確かな考えを形成する」とは、「構造と内容の把握」「精査・解釈」の過程において文章を読んで理解したことを修正・強化するとともに、単元の終末にある「考えの形成・共有」の過程において、修正・強化された理解に基づいて物語の価値や意味を見いだしたり、想像を広げたりすることであると定義し、本研究で目指す児童の姿を次に示す。

- 「構造と内容の把握」「精査・解釈」の過程において、読みを修正・強化することができる児童
  - 「考えの形成・共有」の過程において、修正・強化された読みに基づいた考えを、記述や発話により表現することができる児童
- 【思考力、判断力、表現力等】

(イ) 副題について

「読み」とは、物語の全体像や登場人物の心情、人物像等の課題について、読者が見いだす納得解のことであり、考えの根拠となるものである。「読みを追究する」とは、他者との関わりを通して、新たな叙述に着目したり、叙述に対する解釈を見直したりしながら、読みを見いだすことである。本研究では、単元の終末だけでなく、導入にも「考えの形成・共有」を位置付け、自他の考えの「違い」に出会うことができるようにする。つまり、「違いをもとに読みを追究する学習過程」とは、自他の考えの違いに出会うことで、「なぜ違うのか」という課題意識をもちながら物語を読み、見いだした読みをもとに考えを再構成する一連の学習活動のことである。このような学習過程を通して、読みに基づいた考えを形成することができるようにする。

イ 研究の内容

本研究では、読みを修正・強化するために、「構造と内容の把握」「精査・解釈」の過程において、以下の手立てを設定する。

(7) 選択型の課題の提示

選択型の課題とは、「AかBか」「1～3のうちどれか」「どんな順序か」など、児童が自分の読みを選択・判断する課題のことである。桂(2008)は、「『Which型』の課題なら、選択・判断するだけなので、誰もが学びの第一歩を踏み出すことができる」<sup>2)</sup>と述べており、選択型の課題の有効性を示している。また、自他の読みの違いを明確にすることで、目的に応じて関わる相手を自己決定しながら読みを修正・強化することができる。なお、選択型の課題の提示は、読みを追究する過程を有効に働かせるための手立てであり、必ずしも1つの読みに収束させることを目指すものではない。自他の読みやその根拠となる叙述や解釈を比較しながら、読みを修正・強化することを目指すものである。

(4) 3つの話す活動

選択型の課題に対して、3つの話す活動を通して読みを追究する(表1)。1つは、課題に対する自分の直感的な読みを伝え合う「話す活動①」である。この活動を通して、児童は自他の読みの違いに出会い、その根拠を精査しようという課題意識をもつことができる。2つは、自分の読みについて根拠を尋ね合う「話す活動②」である。この活動を通して、自分の読みと根拠を言葉にして整理するとともに、新たな叙述に着目したり、解釈を見直したりすることができる。3つは、読みの根拠を比べたり、仮定したり、まとめたりすることで見いだした読みを伝え合う「話す活動③」である。この活動を通して、児童は読みを修正・強化することができる。

表1 話す活動の目的・内容・方法

	話す活動①	話す活動②	話す活動③
目的	自他の読みの違いに出会い、根拠を精査しようとする課題意識をもつ。	・自分の読みと根拠を言葉にし、整理する。 ・新たな叙述に着目する。 ・叙述に対する解釈を見直す。	読みを修正・強化する。
内容	直感的な読みを伝え合う。	(1)～(3)を尋ね合う。 (1)読み(どれ・どちら) (2)叙述(どの言葉から) (3)解釈(なぜその言葉から)	(1)～(3)の考え方を用いて自分の読みを伝え合う。 (1)比べる(AよりBのほうが～だから) (2)仮定する(もしAだったら～だから) (3)まとめる(つまり、Aは～で、Bは～だから)
方法	全体	目的に応じて相手を選択 ↓ 全体で共有	グループ ↓ 全体で共有

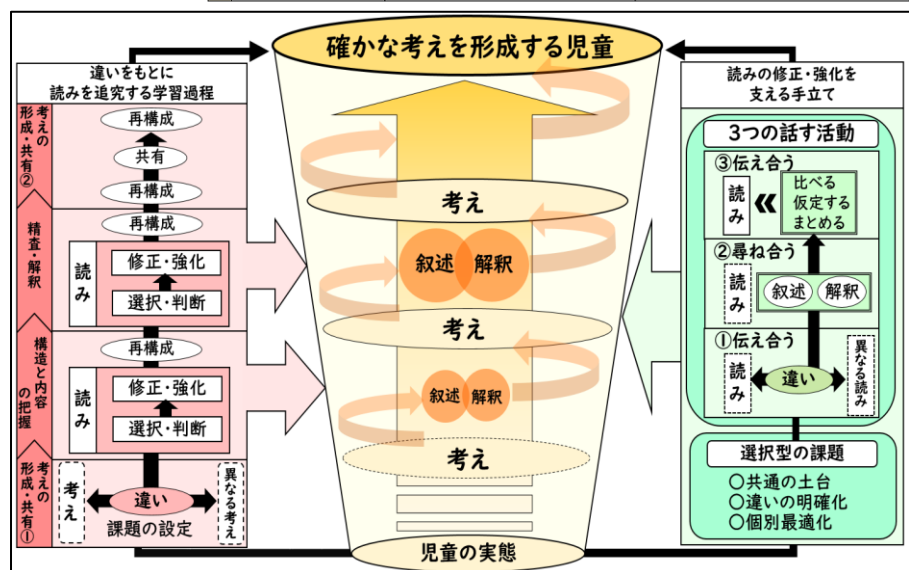


図1 研究構想図

### (3) 研究の実際

#### ア 実証授業の学年及び単元計画(全11時間) A市立B小学校第5学年C組35名

単元名：友達とのちがいに着目して読み、アフターストーリーをつくろう「大造じいさんとガン」

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言葉の意味や働き、文章の構造や展開を理解することができる。【知識及び技能】</li> <li>○ 登場人物の心情の変化や人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>○ 読みを修正・強化するために、他者と進んで関わろうとする。【学びに向かう力、人間性等】</li> </ul>	
段階	学習活動	配時
形成・共有①	1 教材文「大造じいさんとガン」を読み、学習課題を設定する。 (1)「前がき」を読み、大造じいさんの人物像を想像する。 (2)1～4場面を読み、新出漢字の読みや語句の意味を確認する。 (3)1～4場面を読み、アフターストーリーを考える。 (4)考えたアフターストーリーを全体で共有し、学習課題を設定する。	4
構造と内容の把握	2 叙述を正しい順序に並べる課題に対して読みを追究し、物語の構造と内容を把握する。 (1)計略の内容と結果についての叙述を正しい順序に並べ、物語の展開を捉える。 (2)残雪に対する呼称を正しい順序に並べ、大造じいさんの心情の変化を捉える。 (3)情景描写を正しい順序に並べ、情景描写の働きを捉える。	3
精査・解釈	3 選択型の課題に対して読みを追究し、大造じいさんの人物像や変容を具体的に想像する。 (1)「大造じいさんの気持ちはいつ変わったのか」について読みを追究し、大造じいさんの心情が変化した原因を想像する。 (2)「『堂々と戦おう』とはどういうことか」について読みを追究し、大造じいさんの人物像について想像する。	2
形成・共有②	4 前時までに見いだした読みをもとに、アフターストーリーを再構成する。 (1)前時までに見いだした読みをもとに、アフターストーリーを再構成し、プレゼンテーションソフトに入力する。 (2)アフターストーリーを全体で共有し、コメント機能を用いて評価を伝え合う。 (3)評価をもとに修正・強化したアフターストーリーを清書する。	2

#### イ 実証授業の実際と考察

##### (7) 考えの形成・共有①(第1～4時)

「考えの形成・共有①」の段階では、自他の考えの違いに出合い、読みを追究することへの課題意識をもつことをねらいとした。そのために、初読の段階の考えを形成・共有する活動を位置づけた。本単元では、物語のアフターストーリーをつくるという活動を通して考えを形成した。

まず、アフターストーリー的具体像を捉えるため、教師が考えたアフターストーリーを提示した。すると、計略名や計略の内容に着目した児童から、

「『正々堂々作戦』なのに、タニシをばらまくのはおかしいですよ。」という、自分と教師の考えの違いを指摘する発言があった。そこで、それぞれの児童が考えるアフターストーリーを記述し、協働学習支援ツールを用いて共有した。児童は、自他のストーリーを比較することで、考えの違いに出合い、考えの根拠となる読みの違いにも気付くことができた(資料1)。そして、「堂々と戦おう」と残雪に伝えた大造じいさんが、その後どのような計略を用意するのかについて、考えを主張し合った。このような姿は、自分とは異なる考えに出合い、根拠となる読みを追究しようとする姿であると判断する。

この姿から、初読の段階の考えを形成・共有する活動を位置付けたことは、児童が他者との考えの違いに出合い、根拠となる読みを追究することへの課題意識をもつ上で有効であったと考える。

##### (イ) 構造と内容の把握(第5～7時)

「構造と内容の把握」の段階では、物語の構造と内容に対する読みを修正・強化することをねらいとした。そのために、叙述を正しい順序に並べる課題を提示し、3つの話す活動を通して読みを追究す

資料1 A児とB児の想像したアフターストーリー(考え)と、根拠とした読み



これは、読みの根拠について、仮定したりまとめたりして考えることで、読みを修正し、根拠を強化した姿であると判断する。

これらのことから、選択型の課題に対して、3つの話す活動を通して読みを追究する過程を設定したことは、児童が登場人物の人物像や心情に対する読みを修正・強化する上で有効であったと考える。

(E) 考えの形成・共有② (第10、11時)

「考えの形成・共有②」の段階では、修正・強化された読みに基づいた考えを、記述により表現することをねらいとした。そのために、次のような段階を経てアフターストーリーを再構成した。

はじめに、前時までに見いだした読みや、メモをふり取りながら、考えたアフターストーリーをプレゼンテーションソフトに入力した。メモとは、第5～9時のふり取り場面において、見いだした読みをもとにアフターストーリーを見直し、修正したい内容や、根拠として加えたい読みを記述したものである(資料7)。B児は、修正・強化した読みを新たな根拠として吹き出しに記述し、アフターストーリーにおける計略の内容や情景、大造じいさんの心情を想像することができた(資料8)。

これらの記述は、修正・強化された読みに基づいた考えを記述により表現した姿であると判断する。次に、記述したアフターストーリーを、協働学習支援ツールを用いて共有し、コメント機能を用いて評価を伝え合う場を設定した。児童は、「読みに基づいたものになっているか」という視点でコメントを伝えていた(資料9)。最後に、コメントをもとに再構成したアフターストーリーを紙に清書した(資料10)。他者からのコメントを見たある児童から、「コメントに納得ができれば、修正しなくても良いですか。」と質問があった。これは、自分のアフターストーリーに対して、根拠となる読みを明確にもつことができ、強化された読みに基づいた考えを形成している姿であると判断する。

一方で、漢字の使用や記述の分量など、異なる視点からのコメントも見られたため、アフターストーリーの再構成に、コメントを活用することができなかつた児童もいた。

これらのことから、展開段階で見いだした読みやメモをもとに、アフターストーリーを再構成する活動を設定したことは、児童が修正・強化された読みに基づいた考えを表現する上で有効であったと判断する。しかし、考えを共有する際の視点や方法については、今後検討が必要であると考えられる。

①計略名 「堂々作戦」	どうしてそんな計略を思いついたの？ 冬の大造じいさんの時間を 取って、たはぶ が物語的に 思いついたから。
②どんな計略？(計略の内容) 10年かけて、いまだ使った 計略を全部準備して、残 雪をつかまえる計略。	どうしてそんな計略を思いついたの？ 昔から、昔から 関係しているから、 大造じいさんの 思いついたから。
③どんな情景？(天気や目に見える景色) 冬の朝の澄みきった青空がぬま地に、 残雪を照らしました。	どうしてそんな情景を思いついたの？ 昔から、昔から 関係しているから、 大造じいさんの 思いついたから。
④計略の結果は？	どうしてそんな結果を思いついたの？
⑤大造じいさんは、残雪に何と言った？ おれたち、来年また戦おう。	どうしてそんな結果を思いついたの？
⑥大造じいさんの気持ちや様子は？ ガンの英雄が、帰っているのを見えなく なるまで見守っていました。	どうしてそんな結果を思いついたの？

資料7 B児のメモ

①計略名 「堂々作戦」	物語内では、どんどん計略の 時間が長くなっていることを 学んだから、計略の時間を5 年にした。そして、この 計略の内容は、狩人の大造じ いさんにとっての堂々だと 思ったからです。
②どんな計略？(計略の内容) 5年かけて、いまだ使った計略を 全て準備して、残雪(えらぶつ)を つかまえる計略。	国語の授業で、情景は、大造じ いさんの心情を表している と習ったから、ガンの英雄(残 雪)に会えるのをうれしいと 思っているのを表したいから。
③どんな情景？(天気や目に見える景色) 冬の朝の澄みきった青空がぬま地に、 広がっていました。	何回も失敗しているから、成功 させるのもいいと思ったけど、 物語内では、最後にガンの英雄 と言っているの、前、ハヤブ サというじゃまが入ってしまった おとり作戦をいいとこまで行 かせて、失敗にしました。
④計略の結果は？ また、準備した計略を全部し、おとり 作戦以外は失敗してしまい、おとり 作戦もいよいよここまで行きましたが、 えらぶつの残雪に、作戦を見破られて しまいました。	物語の最後に、「おれたちは、ま た堂々と戦おうじゃないか。」と 言っていて、人に対して言う 言っていると思ったので、くやし いと思っている心情にはしませ んでした。
⑤大造じいさんは、残雪に何と言った？ 俺たちは、来年また戦おう。	
⑥大造じいさんの気持ちや様子は？ ガンの英雄が、帰っているのを見えなく なるまで見守っていました。	

資料8 B児が入力したアフターストーリーと根拠



冬がやってきました。残雪は、何年と大造じい  
さんを幸い、ぬま地にやってきました。大造じい  
さんは、堂々作戦で用意した残雪  
を待ちました。それは、5年かけて、いまだ使った  
計略を全て準備し、残雪(えらぶつ)をつかまえる  
計略です。  
残雪の群れが、遠くに見え始めました。  
冬の朝の澄みきった青空がぬま地に広がって、ま  
また準備した計略を全て準備して、おとり作戦と  
いよいよここまで行きましたが、えらぶつの残雪に  
作戦を見破られてしまいました。  
「おれたち、また来年戦おう。」  
大造じいさんは、ガンの英雄が、帰って  
いるのを見えなくなるまで見守  
っていました。

資料10 B児が再構成したアフターストーリー

『3～4年の間』や『ライバル』などの言葉 など、これまで学習したことが生かされてい て、いいと思うよ！
④の逃げるな でもいいけど、大造じいさん は最高のライバルと戦えて、うれしい気持ち だと思

資料9 児童のコメント

#### (4) 全体考察

##### ア 文章に対する読みを修正・強化する児童

資料 11 は、「構造と内容の把握」「精査・解釈」の過程における児童のふり返りを集計したものである。第 7 時、第 9 時ともに、すべての児童が自分の読みを修正・強化することができたと実感していることがわかる。さらに、資料 12 は、修正・強化した自分の読みについて、根拠となる叙述や叙述に対する解釈を記述しているかを分析したものである。第 7 時では 31 名、第 9 時では 30 名と、ともに 90%以上の児童が、根拠となる叙述や解釈を具体的に記述することができた。また、実態調査時と比較すると、すべての児童が自分の読みに対する根拠をもつことができていることがわかる。これは、選択型の課題に対する読みの違いを捉え、3つの話す活動を通して読みを追究することで、新たな叙述に着目したり、解釈を見直したりしたことが有効に働いたと考える。

##### イ 修正・強化された読みに基づいた考えを表現する児童

資料 13 は、単元終末時に記述したアフターストーリーをもとに、①計略の内容や物語の全体像、②情景描写の働き、③大造じいさんの心情、④大造じいさんの人物像という 4 つの観点についての読みを、根拠として記述しているかを分析したものである。全体の約 94%に当たる 31 名の児童が、単元展開段階で見出した読みを、考えの根拠として記述していることがわかる。これは、単元導入時に、初読の段階の考えを形成・共有し、自他の考えの違いに出合ったことで、課題意識をもちながら読みを追究したことが有効に働いたと考える。一方で、全ての観点について見いだした読みを根拠として記述することができなかった児童もいた。さらに、そのうちの 1 名は、単元展開段階において、着目した叙述や叙述に対する解釈を、明確な根拠として記述しながら、読みを見いだすことができた児童であった。これらの児童に対しては、単元の展開段階で読みをもとに考えを再構成する過程や、終末段階で考えを共有する過程において、手立てを工夫する必要があったと考える。

#### (5) 研究の成果と今後の課題

##### ア 研究の成果

- 読みに基づいた考えを形成する上で、単元の導入段階に考えの形成・共有を位置付け、自他の違いをもとに読みを追究する学習過程の有効性を究明することができた。
- 読みを修正・強化する上で、選択型の課題を提示し、3つの話す活動を通して読みを追究する過程の有効性を究明することができた。

##### イ 今後の課題

修正・強化した読みに基づいた考えを形成する上で、以下の点について検討し、有効性を究明する必要がある。

- 単元の展開段階で、見いだした読みをもとに考えを再構成するふり返りの活動の工夫
- 単元の終末段階において、考えを共有する際の視点の明確化

##### <引用文献>

- 1) 石丸 憲一(2020) 『考えの形成を促す文学の発問・交流モデル』 p.12 明治図書出版
- 2) 桂 聖(2018) 『Which 型課題の国語授業』 p.22 東洋館出版社

##### <参考文献>

- ・ 立石 泰之(2017) 『対話的な学び合いを生み出す文学の授業 10 のステップ』 明治図書出版

第7時 構造と内容の把握	修正 19	強化 14	N=33 (人)
第9時 精査・解釈	修正 9	強化 24	

資料 11 第 7 時、第 9 時における児童のふり返り

実態調査時	A 22	B4	C7	N=33 (人)
第7時	A 31		B2	
第9時	A 30		B3	
	A	B	C	
	根拠となる叙述や、叙述に対する解釈を具体的に記述している。	根拠を記述しているが、具体的な叙述や解釈を記述していない。	根拠を記述していない。	

資料 12 自分の読みに対する根拠の記述

A 13	B 18	C 2	N=33 (人)
A	B	C	
4つ全ての観点について、根拠となる読みを記述している。	1~3つの観点について、根拠となる読みを記述している。	全ての観点について、根拠となる読みを記述していない。	

資料 13 終末時に記述した考えに対する根拠の記述

【添付資料】

○ 課題設定の段階で提示した

教師のアフターストーリー



冬がやってきました。残雪は、今年も大きな群れを率いて、ぬま地にやってきました。大造じいさんは、正々堂々作戦を用意して残雪を待ちました。それは、春のうちから集めておいた七俵ほどのタニシをばらまき、ガンをおびきよせる作戦です。

残雪の群れが、遠くに見え始めました。真、赤な太陽が、ぬま地をあつく照らしました。大造じいさんがじゃうをかまえたその時、群れは大きく方向を変えて飛び去りました。残雪は、小屋の中からつき出したじゃうの光を見がしませんでした。

「また、あの残雪めにやられたか。」大造じいさんは、くやしそうにくらむるをのみしめながら、残雪を見おくりました。

五年組 池田 友美

○ 第5、6時に提示した選択型の課題

D	じいさんは、おりのふたをいっばいに開けてやりました。
C	じいさんは、一晩中かかって、たくさんウナギつりばりをしかけておきました。
B	大造じいさんは、夏のうちから心がけて、タニシを五俵ばかり集めておきました。
A	このガンを手に入れたときから、ひとつ、これをおどりに使って、残雪の仲間をとらえてやろうと、考えていたのでした。
D	あの群れの中に一発ぶちこんで、今年こそは、目にも見せてくれるぞ。
C	おうい、ガンの英雄よ。お前みたいなえらぶつを、おれはひきようなやり方でやつけたかあないぞ。
B	たかが鳥のことだ、一晩たてば、また忘れてやってくるにちがいない。
A	さあ、今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。

○ 資料12に関わる児童のノート

<p>に清らかにばらばらと散りました。</p> <p>情景と心情には関係があ、ていて、心情が変わっている。と同時に情景も変わって、いくことが分かりました。インタビュータイムで自分の意見を出せて楽しかったです。</p> <p>あつてそこから、かかやい、まじは、余公のかんじか、なして、おかし、か、し、い、け、る、の、か、ん、じ、か、し、て、い、て、お、ま、じ、に、も、ま、じ、は、な、な、を、あ、つ、き、た、か、ら、</p>	<p>D らんまんときいたスモモの花が、その羽にふれて、雪のよう に清らかにばらばらと散りました。</p> <p>C 秋の日が、美しくかがやいていました。</p> <p>B あかつきの光が、小屋の中ですすがすがしく流れ込んできま した。</p> <p>A 東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。</p>	<p>最初の方は、C A B D と、思っていたけれど友だち の意けんをきいて、C B A B か、A B C D かまよ、て A B C Dにしたけれど、友だちのけん が、しっかりといて、しょう正で きた。</p>
---	---	--

【A評価】

根拠となる叙述と叙述に対する解釈を具体的に記述している。

【B評価】

根拠を記述しているが、具体的な叙述や解釈を記述していない。

○ 資料 13 に関わる児童のノート

<p>①計略名 「残雪撃破作戦」</p>	<p>どうしてそんな計略を想像したの？</p>
<p>②どんな計略？（計略の内容） 今まで使ってきた罠やおとりを全て4年かかって作り、残雪を撃破するという作戦です。</p>	<p>今まで使ってきた罠は、残雪を捕まえるためなので、大造じいさんにとって、堂々とした作戦であるから。さらに残雪の知恵に打ち勝つにはそれなりの時間が必要なのに加え、さらに、いつもかかっている時間はだんだん伸びているから、4年かかるようにした。</p>
<p>③どんな情景？（天気や目に見える景色） 空は赤く染まり、大造じいさんが立てた小屋に、心地よい風が吹き込んできました。</p>	<p>どうしてそんな情景を想像したの？</p> <p>情景は大造じいさんの気持ちと同じになっているので、また残雪と堂々と戦える喜びを表している。</p>
<p>④計略の結果は？ これまで罠にはつかまりませんでしたが、ばらまいたタニシはしっかり食べた形跡があったので、今日はオトリを使い油断しているすぎに残雪を打ち落とそうとかんがえていました。いよいよがんの群れが近寄ってきました。少し離れた場所から銃を構えました。ですが、おとりにつかからず、残雪はくるりと向きを変え、どこかへ飛んで行ってしまいました。</p>	<p>どうしてそんな結果を想像したの？</p> <p>罠には残雪は今まで捕まらなかったもので、結局は残雪を捕まえることはできないようにした。</p>
<p>⑤大造じいさんは、残雪に何と言った？ 「ガンの英雄の知恵に勝つことはできないか」</p>	<p>どうしてそんな気持ちや様子を想像したの？</p> <p>最後は人に対する気持ちになっており、卑怯な勝ち方はしたくないという思いもあったから。</p>
<p>⑥大造じいさんの気持ちや様子は？ ガンの英雄よ。堂々とした作戦だから勝ちたかったが、今日はお前の勝ちだ。</p>	<p>どうしてそんな気持ちや様子を想像したの？</p> <p>最後は人に対する気持ちになっており、卑怯な勝ち方はしたくないという思いもあったから。</p>

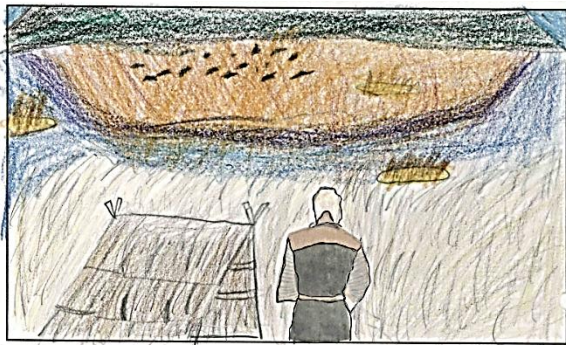
大造じいさんの人物像（「堂々と戦う」ことに対する考え方）について、修正・強化された読みを根拠として記述している。

物語全体の構造について、修正・強化された読みを根拠として記述している。

情景描写の働きについて、修正・強化された読みを根拠として記述している。

大造じいさんの（残雪に対する）心情について、修正・強化された読みを根拠として記述している。

○ A 児が再構成したアフターストーリー



冬がやってきました。残雪は今年も大きな群れを率いて、ぬま地にやってきました。大造じいさんは「残雪は作戦を用意して残雪を待ちました。それは今まで使ってきた罠やおとりを全て4年かかって作り、残雪をけきにするという作戦です。罠は赤く染まり、大造じいさんが立てた小屋に心地よい風が吹込んできました。罠にはつかまりませんが、ばらまいたタニシはしっかり食べたあとがいたので、今日はオトリを使い油断しているすぎに残雪を打ち落とそうと考えました。いよいよがんの群れが近寄ってきました。少し離れた場所から銃を構えました。ですが、おとりにつかからず、残雪はくるりと向きを変え、どこかへ飛んで行ってしまいました。大造じいさんは「ガン、英雄よ。堂々とした作戦だから勝ちたかったが、今日はお前の勝ちだ。」と見送りました。